

ブルームバーグ市長記者会見（4月28日午後2時）

ニューヨーク市における豚インフルエンザ(Swine Flu)確認例の増加

4月28日午後2時、ブルームバーグ市長ほかが行った記者会見の概要以下のとおり。

ブルームバーグ・ニューヨーク市長

- ・ 米国疾病予防管理センターCDC (the Center for Disease Control) が、ニューヨーク市内で豚インフルエンザの感染 44 件を確認した。感染者数は今後も増える見込みだが、ほとんどの患者の症状は穏やかであり、全て回復中である。(当館注：CDC は 45 件と発表)
- ・ ニューヨーク市内で新たにその疑いがある 5 件を検査中である。1 件はセント・フランシス高校と関係があり、2 件は関係がない。ブロンクスの 2 歳の男の子とブルックリンの女性が入院しているが、いずれも回復中である。
- ・ 新たに、セント・フランシス高校から遠くない市立 177 特別支援学校で集団感染が生じた可能性がある。82 名が病気であり、12 名が発熱している。このうち 1 名は、兄弟 2 名がセント・フランシス高校に通っている。市立 177 特別支援学校は明日は休校になる。
- ・ 全員が陽性反応だったとしても驚くにはあたらない。伝統的なインフルエンザの症状であり、深刻な症状には至っていない。しかし高齢者や乳児には危険である。毎年約 2000 人が肺炎やインフルエンザで亡くなっている。この状況は今後も続き、米国内でも死者が出るかもしれないが、これは毎年見られることである。

フリーデン衛生局長

- ・ セント・フランシス高校のケースは大発生(outbreak)につながった。数百人が豚インフルエンザによく似た症状を示しているものの、全てを検査するわけではなく、症状が重い者だけである。同校は明日も休校し、今週いっぱい休校することになるだろう。全員が快復に向かっており、大発生のピークは過ぎたと思われる。
- ・ 市立 177 特別支援学校では発熱した 12 人の子供について検査している。同校は休校する。
- ・ 他にマンハッタンのアセンション学校(カトリック系)で 6 名の生徒が発熱し、集団感染の可能性があり検査している。
- ・ 市内であり、拡散しているかといえばイエスである。しかし拡散し続けるか、悪化しているかを述べるには時期尚早である。メキシコでは 150 人以上の死者を出したものの、市内での症例は穏やかであり、拡散の仕方は典型的なインフルエンザと変わりはない。我々は 100 万錠のタミフルを用意している。しかし市民には容態が重い場合にのみ使ってほしい。